

同時に滅菌した同一種類の製品の個数	試験に用いる個数
100 個未満	4 個
100 個以上 500 個未満	10 個
500 個以上	20 個

貯法 容器 微生物の侵入するおそれのない気密容器。

## タルク

Talc

本品は天然の含水ケイ酸マグネシウムで、ときに少量のケイ酸アルミニウムを含む。

性状 本品は白色～灰白色の微細な結晶性の粉末で、におい及び味はない。

本品はなめらかな触感があり、皮膚につきやすい。

本品は水、エタノール (95) 及びジエチルエーテルにほとんど溶けない。

### 確認試験

(1) 本品 0.2 g に無水炭酸ナトリウム 0.9 g 及び炭酸カリウム 1.3 g を混ぜ、白金のつぼ又はニッケルのつぼ中で加熱し、完全に融解する。冷後、融解物を熱湯 50 mL でビーカーに移し、泡立たなくなるまで塩酸を加えた後、塩酸 10 mL を追加し、水浴上で蒸発乾固する。冷後、水 20 mL を加えて煮沸し、ろ過する。残留物にメチレンブルー溶液 (1 → 10000) 10 mL を加え、次に水で洗うとき、沈殿は青色を呈する。

(2) (1) で得たろ液に塩化アンモニウム 2 g 及びアンモニア試液 5 mL を加え、必要ならばろ過し、リン酸水素二ナトリウム試液を加えるとき、白色の結晶性の沈殿を生じる。

### 純度試験

(1) 酸可溶物 本品約 1 g を精密に量り、希塩酸 20 mL を加え、50 °C で 15 分間かき混ぜながら加温し、冷後、水を加えて正確に 50 mL とし、ろ過する。必要ならば澄明になるまで遠心分離し、この液 25 mL をとり、希硫酸 1 mL を加えて蒸発乾固し、800 ± 25 °C で恒量になるまで強熱するとき、その量は 2.0 % 以下である。

(2) 液性及び水可溶物 本品 10.0 g に水 50 mL を加え、質量を量り、蒸発する水を補いながら 30 分間煮沸し、冷後、水を加えて初めの質量とし、ろ過する。必要ならば澄明になるまで遠心分離する。ろ液は中性である。また、ろ液 20 mL を蒸発乾固し、残留物を 105 °C で 1 時間乾燥するとき、その量は 4.0 mg 以下である。

(3) 水溶性鉄 (2) のろ液 10 mL に塩酸を加えて弱酸性とし、ヘキサシアノ鉄 (II) 酸カリウム試液を滴加するとき、液は青色を呈しない。

(4) ヒ素 本品 0.5 g に希硫酸 5 mL を加え、よく振り混ぜながら煮沸するまで穏やかに加熱し、速やかに冷却した後、ろ過し、初め希硫酸 5 mL、次に水 10 mL で洗い、ろ液及び洗液を合わせ、水浴上で蒸発して 5 mL とする。これを検液とし、装置 B を用いる方法により試験を行う (4 ppm 以下)。

強熱減量 5.0 % 以下 (1 g, 450 ~ 550 °C, 3 時間)。

貯法 容器 密閉容器。

## 単シロップ

Simple Syrup

本品は「白糖」の水溶液である。

### 製法

白糖	850 g
精製水	適量
全量	1000 mL

以上をとり、シロップ剤の製法により製する。

性状 本品は無色～微黄色の澄明な濃稠の液で、においはなく、味は甘い。

### 確認試験

(1) 本品を蒸発し、残留物 1 g を加熱するとき、融解してふくれ上がり、カラメルのおいを発して、かさ高い炭化物となる。

(2) (1) で得た残留物 0.1 g に希硫酸 2 mL を加えて煮沸し、水酸化ナトリウム試液 4 mL 及びフェーリング試液 3 mL を加えて沸騰するまで加熱するとき、赤色～暗赤色の沈殿を生じる。

比重  $d_{20}^{20}$ : 1.310 ~ 1.325

### 純度試験

(1) 人工甘味質 本品 100 mL に水 100 mL を加えて振り混ぜ、その 50 mL に希硫酸を加えて酸性とし、また、別の 50 mL に水酸化ナトリウム試液を加えてアルカリ性とし、それぞれにジエチルエーテル 100 mL ずつを加えて振り混ぜ、ジエチルエーテル層を分取して合わせ、水浴上でジエチルエーテルを留去し、更に蒸発乾固するとき、残留物は甘味がない。

(2) サリチル酸 (1) の残留物に希塩化鉄 (III) 試液 2 ~ 3 滴を加えるとき、液は紫色を呈しない。

貯法 容器 気密容器。

## 単軟膏

Simple Ointment

### 製法

ミツロウ	330 g
植物油	適量
全量	1000 g

以上をとり、軟膏剤の製法により製する。

性状 本品は黄色で、弱いにおいがある。

貯法 容器 気密容器。